

氷川神社（元麻布1丁目）



昭和6年

出典：麻布鳥居坂警察署誌

創建は天慶5年とも文明年間ともいう、万治年間（1658～1661年）に麻布一本松付近（現在地より300m程北）から現地へ移転した。



平成21年

現在は、すぐ後ろに元麻布タワーがそびえる。

がま池（元麻布 2 丁目）



昭和 34 年

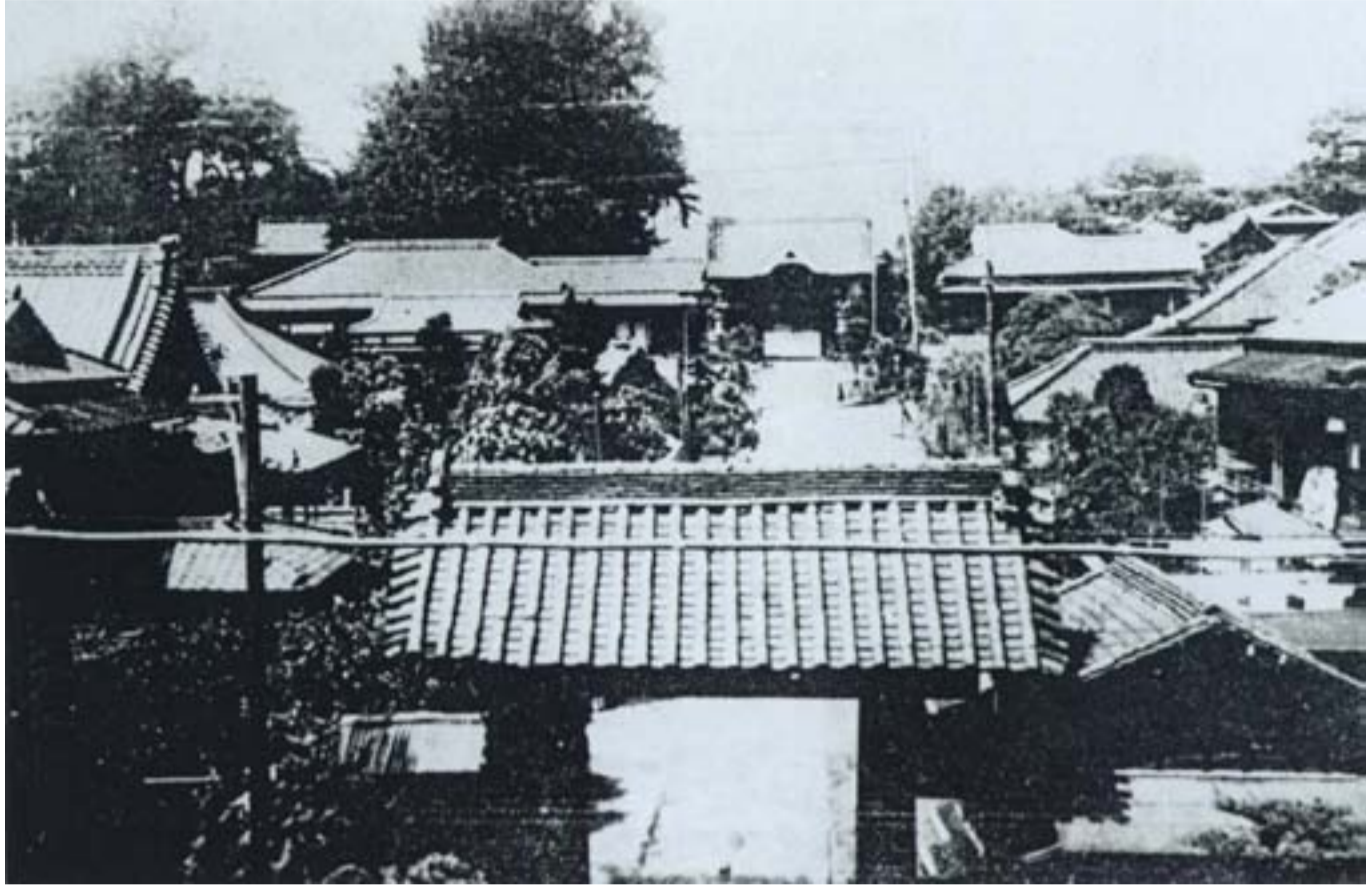
がま池という名の由来には諸説あるが、大蝦蟇が棲んでいたというのは共通するところである。



平成 21 年

現在はマンションの一角に囲い込まれて、大半の面積を失っている。

江戸時代の観光名所 善福寺付近 江戸図絵から現代



戦災消失前の本堂

出典：「港区の文化財第9集」
写真提供：港区立港郷土資料館



昭和34年：善福寺

写真提供：港区立港郷土資料館



平成23年：
現在の善福寺参道から大銀杏方向。

善福寺付近

麻布七不思議にも登場する銀杏の巨木や、初のアメリカ公使館がおかれていた事でも知られる善福寺。「江戸名所図会」にも残る銀杏の巨木は逆銀杏として現在も見ることができる。

善福寺右手の山の下には、第二次世界大戦末期、本土決戦用の地下壕が建設され、完成前に終戦となっている。その後、壕は埋め戻された。



平成23年：
この突き当たり奥に壕の入り口の一つがあった。



「麻布善福寺」

出典：「江戸名所図会」港区立港郷土資料館所蔵

江戸時代の観光名所 一本松付近 江戸図絵から現代



昭和 34 年：一本松坂

写真提供：港区立港郷土資料館



「麻布一本松」

出典：「江戸名所図会」港区立港郷土資料館所蔵



出典：「江戸の華名勝會 麻布」東京都立中央図書館新収文庫和書所蔵

「麻布一本松」

一本松付近

麻布笄橋同様、源経基にまつわる伝説を持っており、江戸時代から明治にかけての絵が伝えられている。

麻布十番交差点から、有栖川宮記念公園方面に山を登った山頂付近に今も立っているが、松は枯れるごとに代々植え継がれ現在に至っている。

この付近の旧地名、一本松町の由来となっていた。



(左)平成 23 年：大黒坂下から一本松方面。



(右)平成 23 年：今も賑わいを見せる大黒坂途中の大黒天。画面中央の高い所の車庫が傾斜地であることを示している。



出典：「新撰東京名所図会」港区立港郷土資料館所蔵

「麻布一本松の図」



平成 23 年：代々植え継がれてきた松の木。

麻布十番と周辺の山坂(暗闇坂)



昭和 50年(1975年)：暗闇坂 坂上から

平成 24年(2012年)

旧麻布宮下町(現麻布十番一丁目)から旧一本松町(現在の元麻布三丁目と一丁目)へと上る坂道。明治 35年に刊行された『風俗画報臨時増刊 新撰東京名所図会 麻布区之部』でも紹介されている。

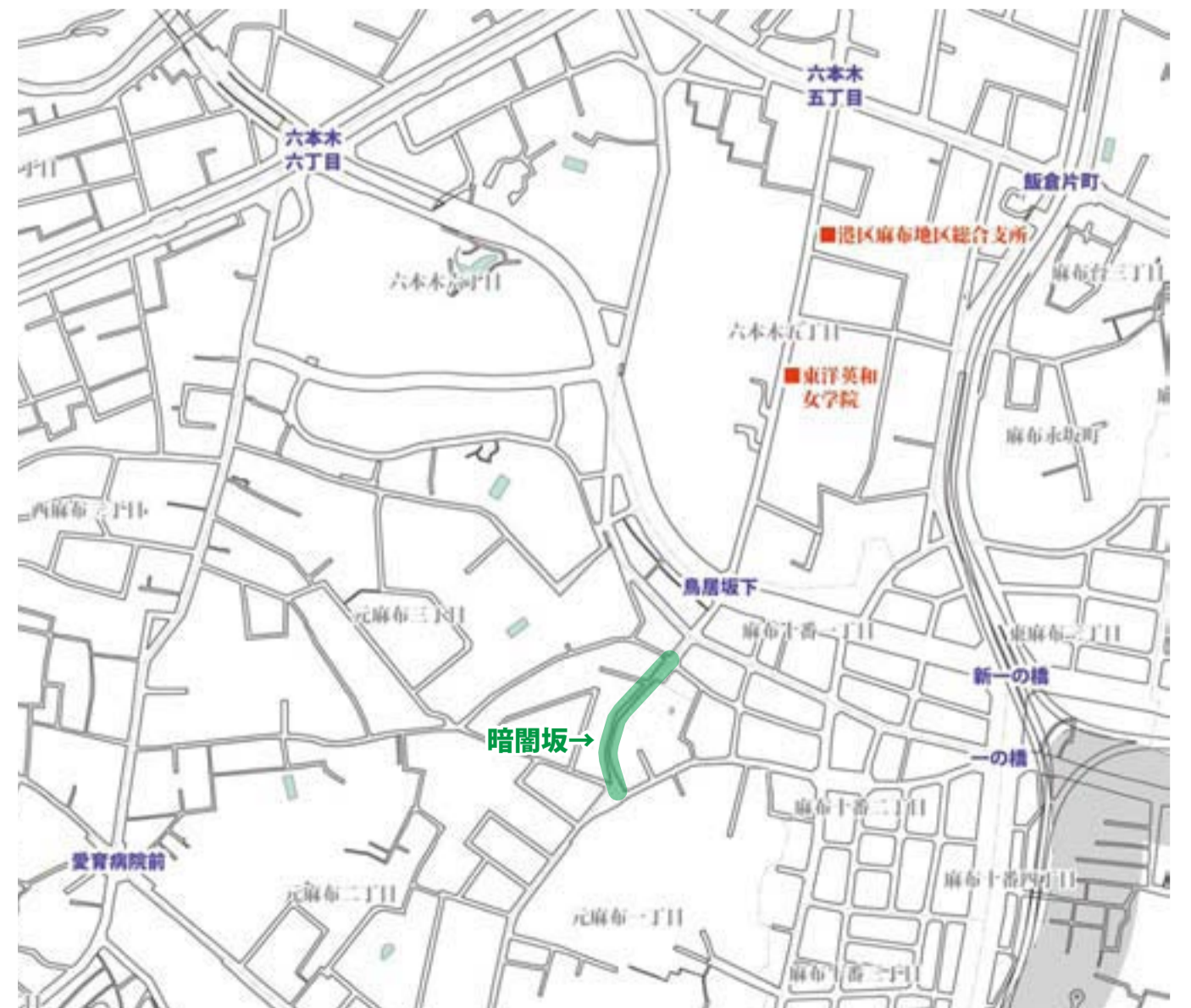
「江戸切絵図」(1861年改正)には「クラヤミ坂」と書かれており、坂上右側にはオーストリア大使館がある。左側は高い崖がつづき、坂道に樹木がおおいかぶさって非常に暗い感じがした。

戦後しばらくはことにさびしく、追剥や痴漢が出没するため、夜など、とても女性や子どもの通れる道ではなかったと言われている。平成 24年(2012年)に左側の建物が一部解体されたことから、空が広がった。



昭和 50年(1975年)：
暗闇坂 坂下から

平成 24年(2012年)



このパネルに掲載されている古い写真については、写真撮影：田口政典氏、写真提供：田口重久氏

麻布十番と周辺の山坂(七面坂)



昭和 50年(1975年)：七面坂 坂下から

平成 24年(2012年)

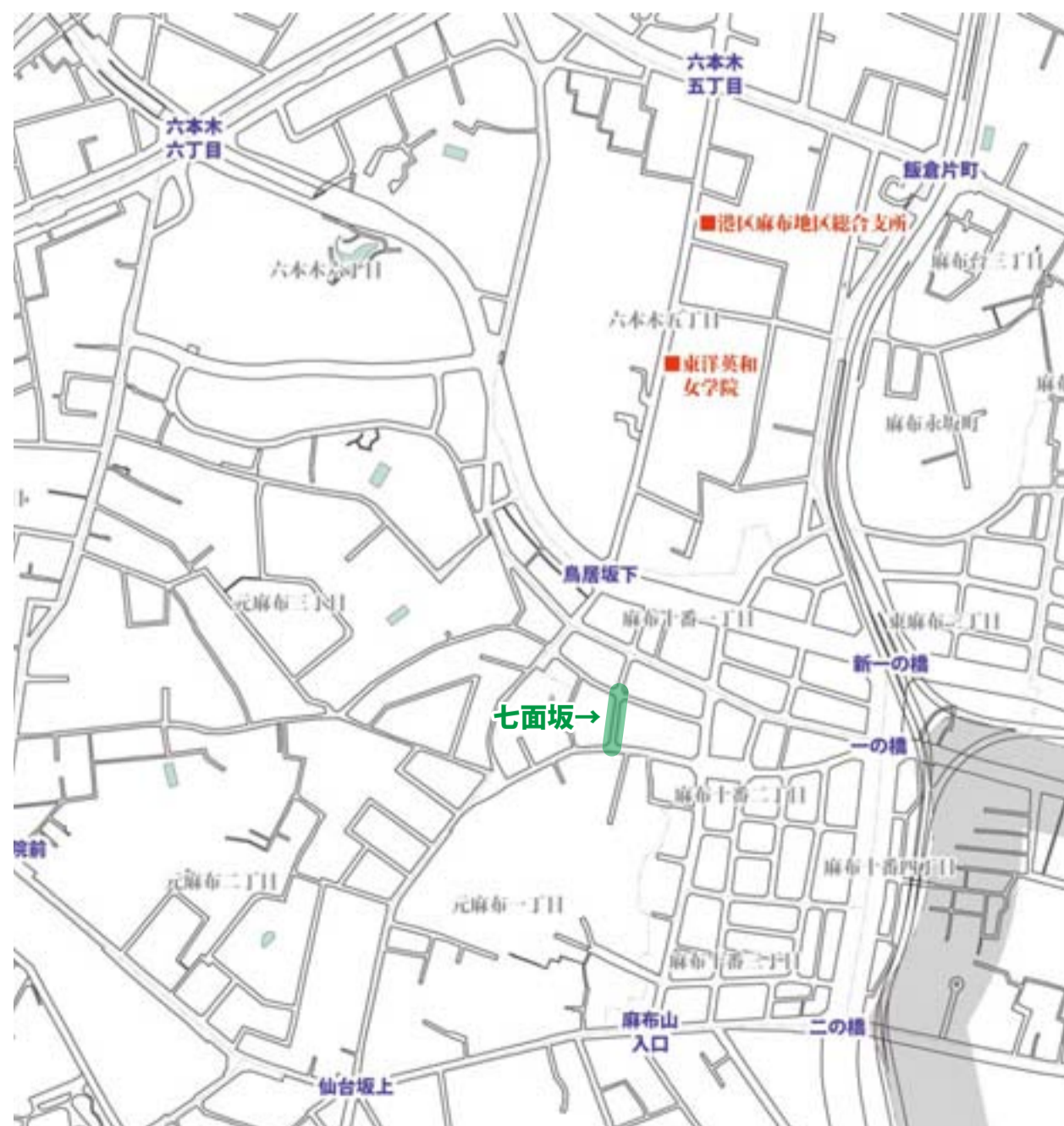
麻布十番二丁目七番と八番の間にある短い坂道。

戦前まで、坂の東側には本善寺があり、七面天女の木像が安置されていた。現在、本善寺は品川区東五反田三丁目六番一号にある。本善寺は1608年の創立で、七面天女は「麻布十番の七面天」と呼ばれ、毎月、1日と9日の縁日には、たいへんな賑わいを見せたと伝えられている。



昭和 59年(1984年)：
七面坂 坂上から

平成 24年(2012年)



麻布十番と周辺の山坂(仙台坂上)



昭和 49年(1974年)：仙台坂 坂上から



平成 24年(2012年)

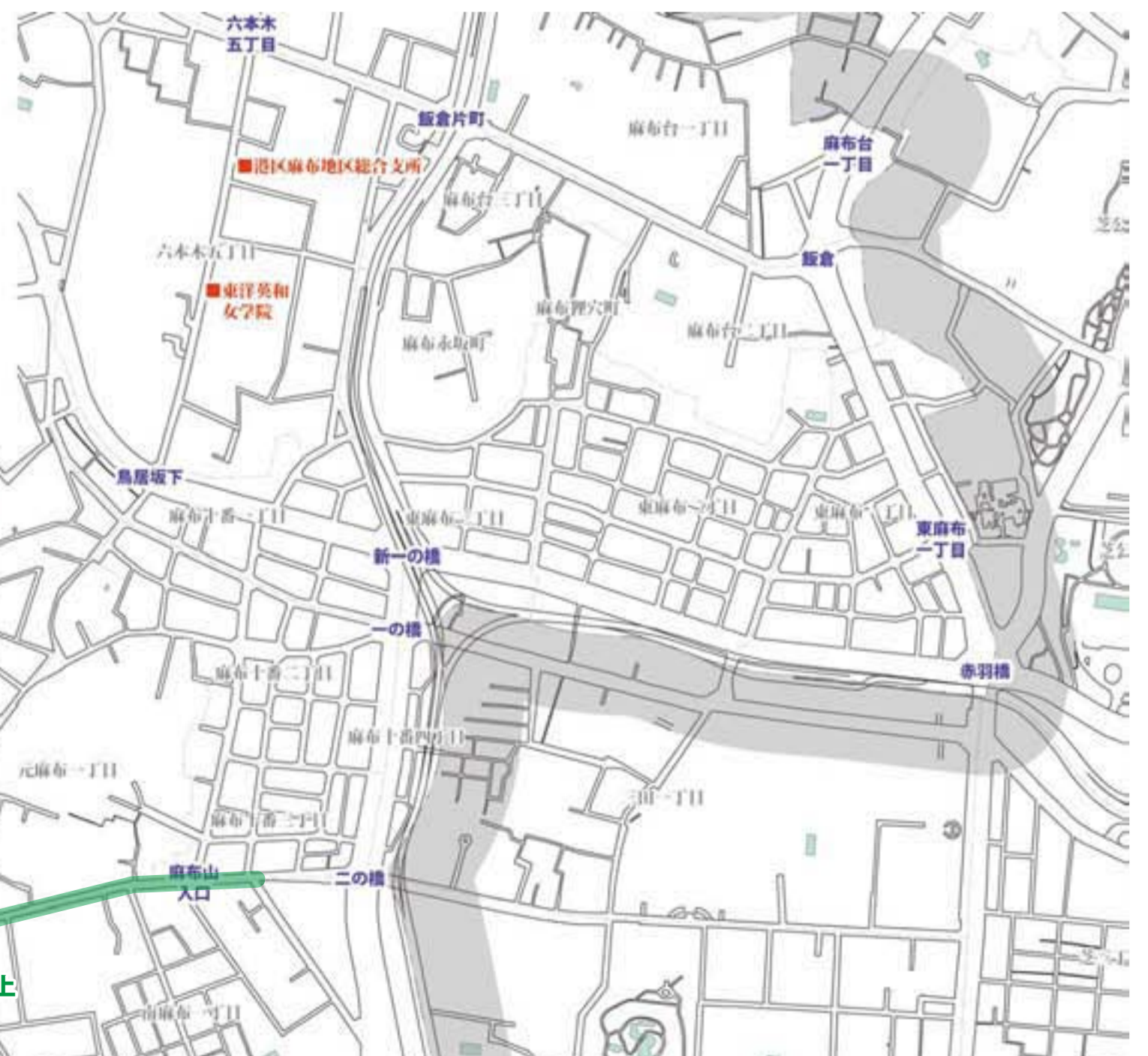


昭和 54年(1979年)：仙台坂 坂上から



平成 24年(2012年)

元麻布一丁目、三丁目と南麻布一丁目の間を東から西へと上る長い坂。
特に坂上近くの傾斜が激しく、麻布十番に一時住んでいた北原白秋は、「仙台坂 石の車を ひきわびて 馬倒れたり 疲れけらしも」と詠んでいる。
かつては坂上に商店街があり賑わっていたが、今はほとんど残っていない。



このパネルに掲載されている古い写真については、写真提供：桜井昭一氏

麻布十番と周辺の山坂(麻布十番商店街)



昭和 48年(1973年)



平成 24年(2012年)

『半七捕り物帳』などで有名な作家・岡本綺堂は関東大震災で焼き出され、その年の年末、知人の紹介で麻布十番に仮住まいしていた。「家の裏は崖であり庭も崖の裾の草堤が押し寄せており何か鬱々している。しかし家があるだけ幸せというものだ。年末の麻布十番の通りは凄い人出で下はぬかるんでおり下手すると転んでしまう。」、などと記している(「十番雑記」1924年)。商店街は大震災時の延焼をまぬがれたことから外部からの流入も多く、その後、賑わったという。第二次世界大戦時の空襲で一帯は瓦礫と化したのが、戦後、地元の人びとの努力によって復旧し、現在に至っている。



昭和 48年(1973年)



昭和 42年(1967年)



平成 24年(2012年)



このパネルに掲載されている古い写真、【写真上段及び中段左】については写真提供:桜井昭一氏、【写真中段右】については写真撮影:田口政典氏、写真提供:田口重久氏

麻布の交通「麻布十番付近」



昭和 42年(1967年)：二の橋交差点付近

二の橋交差点付近より、麻布十番方面を望む。



平成 24年(2012年)



昭和 42年(1967年)：新一の橋交差点付近

一の橋交差点付近から、新一の橋方面を望む。
建設中の首都高速道路「一ノ橋ジャンクション」。



平成 24年(2012年)



平成 24年(2012年)：一の橋交差点付近(3点とも)

